

“International Conference on Risk Assessment of Marine Toxins in Seafood”でマリントキシン研究会メンバーが招待講演

2010年11月5日に台湾海洋大学（中華民國台湾 基隆市）で“International Conference on Risk Assessment of Marine Toxins in Seafood”が開催され、マリントキシン研究会メンバー野口玉雄氏、荒川 修氏、浅川 学氏、長島裕二氏の4名が参加した。

本国際会議は、台湾行政院衛生署食品藥物管理局、台湾海洋大学生命科学院、Research Promotion Center for Life Science, National Science Council, R.O.C.によって主催され、日本のマリントキシンのリスクアセスメントの現状と問題点は野口玉雄教授（東京医療保健大学）が、台湾について Professor/Dean Deng-Fwu Hwang（台湾海洋大学）が、アメリカ合衆国について Professor Yao-Wen Huang（ジョージア大学教授）がそれぞれ1時間ずつ基調講演を行った。その後、研究トピックスが2題紹介され、長島裕二教授（東京海洋大学）が「トラフグ肝臓におけるフグ毒テトロドトキシン取込みメカニズム」を、Professor Yung-Hsiang Tsai（高雄海洋科技大学）が「台湾におけるヒスタミン中毒と研究」について発表した。

講演後全体討議が行われた。わが国では食中毒事件としてあまり大きな問題にはなっていないが、台湾ではヒスタミン中毒が頻発し、とくに学校給食で集団ヒスタミン中毒が続いて発生したこともあり社会的関心が高く、参加者からヒスタミン中毒に関する質問や意見があり、約1時間（30分間の予定）にわたり活発な討論が繰り広げられた。



会議のプログラムは以下の通り。

第1部 基調講演

1. Risk assessment of marine toxin in Japan Dr. Tamao Noguchi
2. Risk assessment of marine toxin in USA Dr. Yao-Wen Huang
3. Risk assessment of marine toxin in Taiwan Dr. Deng-Fwu Hwang

第2部 研究トピックス紹介

1. Hepatic uptake mechanism of tetrodotoxin in the puffer fish
Dr. Yuji Nagashima
2. Histamine poisoning and research in Taiwan Dr. Yung-Hsiang Tsai

第3部 総合討論

(文責 長島裕二)